

## U4章 形容詞の複主語5種類

形容詞が複主語(二重主語)を持つことについて次の順序で説明します。

U4.1 形容詞の単主語と複主語 (42)

形容詞の主語と必要要素, 適合主語, 複主語に触れます。

U4.2 形容詞には必要要素がある (43)

必要要素, 適合主語, 非適合主語について説明します。

U4.3 形容詞の5種類の複主体 (44)

形容詞の複主体のあり方を5種類に分けて説明します。

(1) 本属複主体 (44)

本主体と属性主体について説明します。

(2) 因果複主体 (46)

原因主体と結果主体について説明します。

(3) 感覚複主体 (47)

感覚主体と帯感主体について説明します。

(4) 時場複主体 (48)

時の複主体と場の複主体に分けて説明します。

(5) 数量複主体 (50)

数量主体は主体の時差主体であることに触れます。

形容詞の主語

主語は構造上では主体として存在します。

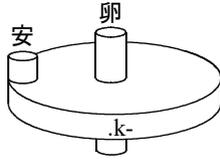
日本語の形容詞は単主語と複主語で使用されます。

[単主語] 卵が安い

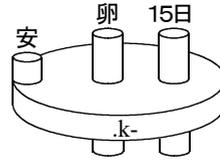
形容詞「安い」の主語(主体)は「卵」

[複主語] 卵は15日が安い

形容詞「安い」の主語(主体)は「卵」と「15日」



図U4-1 [単主語] 卵が安い



図U4-2 [複主語] 卵は15日が安い

形容詞には必要要素があり、この要素を持つ語が適合主語になります。

[必要要素] 形容詞「安い」の必要要素は「価格」、意味は「価格小」。

[適合主語] 形容詞「安い」は「価格」を持つものを適合主語とします。

「卵」……「価格」を持つので「安い」の適合主語です。

「15日」…「価格」を持たないので「安い」の適合主語ではありません。「非適合主語」です。

つまり、複主語では非適合主語が主語になることがあります。

「卵は15日が安い」……「15日」という非適合主語も主語になっています。

このU4章では非適合主語の問題もある複主語について次の順に考えてみます。

- |                          |                     |
|--------------------------|---------------------|
| (1) 象は目が <u>小さい</u> 。    | ? 象は小さい<br>目が小さい    |
| (2) 冬は水が <u>冷たい</u> 。    | ? 冬は冷たい<br>水が冷たい    |
| (3) 私は暗闇が <u>こわい</u> 。   | 私はこわい<br>暗闇がこわい     |
| (4a) 卵は15日が <u>安い</u> 。  | 卵は安い<br>? 15日が安い    |
| (4b) 鰻は吉屋が <u>おいしい</u> 。 | 鰻はおいしい<br>? 吉屋がおいしい |
| (5) リンゴが3個 <u>赤い</u> 。   | リンゴが赤い<br>3個(が)赤い   |

問U4-1 形容詞を単主語と複主語で使用する例を挙げてください。

問U4-2 「広い」の必要要素と意味は何ですか。適合主語の例も挙げてください。

**U4.2: 形容詞には必要要素がある**

**必要要素**

前ページにも述べましたが、形容詞にはそれぞれの「必要要素」があります。たとえば、形容詞「安い」の必要要素は「価格」で、意味は「価格小」です。この必要要素「価格」を持つ実体(名詞)が形容詞「安い」の主体(主語)になります。

次の文では、「りんご」は形容詞「安い」の必要要素「価格」を持っているので、「安い」の主体(主語)になることができます。

りんごが安い。

一方、次の文がおかしいのは、「価格」という必要要素を持たない「地球」が「安い」の主語になっているからです。

\*地球が安い。

**適合主語・適合主体**

上の、「りんご」のように形容詞の必要要素を持ちつつ主語になっている名詞をその形容詞の「適合主語・適合主体」とよび、「地球」のように必要要素を持たずに主語になっている名詞を「非適合主語・非適合主体」とよびます。

いくつかの形容詞の例でこの関係を示してみます。

表U4-1 それぞれの形容詞の「必要要素」と「適合主体例」

形容詞	必要要素	意味	適合主体(主語)例
安い	価格	価格小	りんご, 肉, 椅子, 入場料, 部屋代
長い	始終点間距離	距離大	糸, 直線, 足, 奥行き, コース
	始終点間時間	時間大	会議, 運転, 休憩, デフレ, 番組
うまい	味	良好な味	餃子, ラーメン, お酒, 豆腐, 牛丼
	技能/その対象	良好な技能	卓球, 話, カラオケ, 「卒業」, 風景
楽しい	感情の持ち主	人が感情を持つ	私(一人称), [質問の中で]君(二人称)
	感情の原因	感情を起こす	パーティー, 旅行, おしゃべり
高い	価格	価格大	野菜, 料金, 画用紙, 靴, 車
	上方への距離	上方距離大	背, 枕, 塀, 波, 山
	空間的位置	空間的上方位置	太陽, 枝, 天井, 窓, 崩落箇所
	心理的位置	心理的上方位置	理想, 志, 鼻, 目, 気位

表中の名詞(適合主体例)はそれぞれの形容詞の主語になります。

問U4-3 「このコースは長い。」という文が正常なのはなぜですか。

問U4-4 「彼は話がうまい。」という文が正常なのはなぜですか。

問U4-5 ふつう「電力が楽しい」「地軸が安い」と言わないのはなぜですか。

U4.3 形容詞の5種類の複主語

19～21章, C1.7, S2.1

5種類の複主語

形容詞の複主語(複主語)を次のように5種類に分類します。

表U4-2 形容詞の5種類の複主語

この番号の順に説明していきます。

	複主語の名称	各主体の種類	主体間の関係
(1)	本属複主語	本主体－属性主体	所有者－所有物 などの明瞭な関係
(2)	因果複主語	原因主体－結果主体	属性の原因者－属性の結果者
(3)	感覚複主語	感覚主体－帯感主体	属性(感覚)の持ち主－帯感物
(4)	時場複主語	主体－時・場の主体	属性の持ち主－属性生起の時・場
(5)	数量複主語	主体－数量主体	属性の持ち主－属性の持ち主の数量

この表は形容詞関係の表です。『日本語のしくみ(1)』の「S2.1 複主語・複主語」参照。

(1) 本属複主語

S2.1hs①

「象は目が小さい」というときには2つの主語があります。

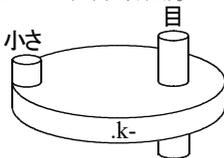
- a) 象が小さい (?)
- b) 目が小さい

形容詞「小さい」のこの場合の意味は「体積小」です。「象」は体積大なので

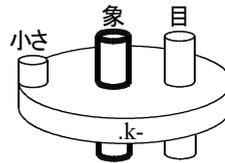
- a) の「象が小さい」はふつうは変です。それで、「象」は非適合主語です。
- b) の「目が小さい」では、体積小の「目」は適合主語です。

a) の「象」は非適合主語です。しかし、「象は目が小さい」という文は正常です。これはなぜでしょうか。これは「象」の属性が単独の「小さい」ではなく、「目が小さい」全体であるためです。

「象は目が小さい」というとき、意味的にはまず「目が小さい」の部分が成立し(下左図)、これが拡大属性(属性+主体)となります。主語「象」はこの拡大属性の主体となっているのです(下右図)。



図U4-3 目が小さ.k- (拡大属性)



図U4-4 象<sub>1</sub>は目が小さ.k-

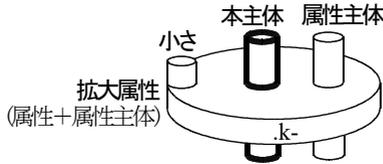
「目」は「目が小さい」という「拡大属性」の主体ですので「(拡大)属性主体」とよびます。「象」は「本主体」とよびます。本主体は太線で示すこともあります。

問U4-6 「象は鼻が長い」の「象」と「鼻」は主語ですか。相互の関係は。

問U4-7 「この象は窓がかわいい」の意味が分かる場合と分からない場合の説明。

本主体と属性主体は明瞭な関係を持つ

19.3[特徴1]



図U4-5 本主体と属性主体

「本主体」と「属性主体」は常識的に明瞭な関係を持っています。

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 大輔さんは車が大きい。 | 所有者と所有物     |
| 田中さんは息子が若い。 | 人とその家族      |
| 裕美さんは歌がうまい。 | 人とその能力(の対象) |
| 富士山は山頂が白い。  | 物とその部分      |

関係が不明瞭な場合は意味が分かりません。

- ? 大輔さんは新幹線が大きい。 人と何?
- ? 田中さんは鈴木さんが若い。 人と何?

関係を無理に見いだそうとすることもありますが、結局よく分かりません。

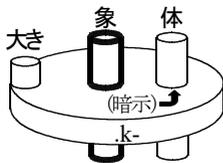
- ? 裕美さんは風がうまい。 人と何? 歌う歌の題名? 描く対象?
- ? 象は財布が赤い。 動物と何? 飼育員に持たされた所有物?

属性主体を言わなくてよいとき ……形容詞が属性主体を暗示する場合

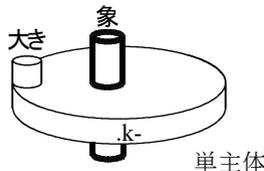
「象は体が大きい」というときは「体が」(属性主体)を言わずに、「象は大きい」と言うだけで十分です。……その形容詞(大きい)が属性主体を(体が・全体が、のように)暗示しているからです。この「暗示」を下図左のように「折れ太矢印」で図示します。このときの構造は単主体の構造(下図中央)と同じになります。

「白い」は「色が」を、「美しい」は「容貌が」を、「安い」は「値段が」を暗示しますので、「車は色が白い」「由紀さんは容貌が美しい」などと言う必要はありません。

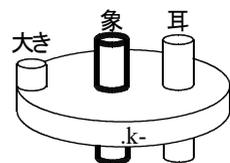
これに対して、「象は耳が大きい」というとき、「大きい」では「耳が」が暗示されないの、はっきりと「耳が」(属性主体)を言う必要があります。



図U4-6 象は(体が)大きい



図U4-7 象は大きい



図U4-8 象は耳が大きい

問U4-8 「その箱は蓋が赤い。」という文の「蓋が」は省略できますか。その理由も。

(2) 因果複主体

S2.1hs①

「冬は水が冷たい」というときにも2つの主語があります。

- a) 冬が冷たい
- b) 水が冷たい

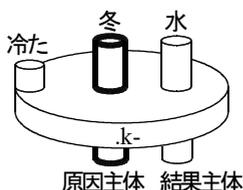
形容詞「冷たい」の必要要素は「肌に触れる感触」で、意味は「物が肌に触れるときに感じる低い温度」なので

- a) の「冬」は肌に触れませんから、「冬」は非適合主語といえます。
- b) の「水が冷たい」では「水」は肌に触れるので適合主語です。

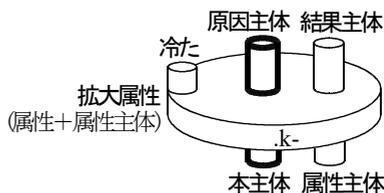
「冬」という非適合主語が主語になっているのは (1)の場合と同じで、「冬」の属性が「冷たい」ではなく、「水が冷たい」という拡大属性であるためです。

構造で示せば下左図のようになります。

「冬は水が冷たい」では、本主体「冬」は拡大属性「水が冷たい」の原因となっています。「冬なので／冬だから／冬のため、水が冷たい」と言い換えられます。それでこの本主体(冬)を「原因主体」とよび、属性主体(水)を「結果主体」とよびます。



図U4-9 冬の1は水が tumeta.k-



図U4-10 原因主体と結果主体

原因主体と結果主体に明瞭な関係は必要ない

「原因主体」と「結果主体」には(1)で必要だった常識的な明瞭な関係は必要ありません。(ただし、下記 f のように関係がある場合もあります。)

- c) その話は頭が痛い 「その話」と「頭」は特に関係はありません。
- d) 夏は体調が良い 「夏」と「体調」は特に関係はありません。
- e) 共催は気が重い 「共催」と「気」は特に関係ありません。
- f) 団体旅行は集合が早い 「団体旅行」と「集合」は常識的な関係があるので、(1)の本属複主体としても考えられます。

問U4-9 「このデフレは(継続時間が)長い」の( )内を言わなくてもよいのはなぜ。

問U4-10 「富士山は高い」「富士山ツアーは高い」の「高い」の違いの説明。

問U4-11 「日本は広い」と「日本は多い」で、前者の方が分かりやすいのはなぜ。

問U4-12 「紙は細工がやさしい」の「紙」と「細工」は主語ですか。相互の関係は。

(3) 感覚複主体

= 感情複主体

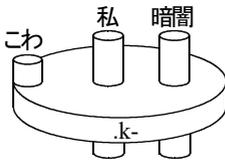
S2.1hs②

「私は暗闇がこわい」というときにも2つの主語があります。

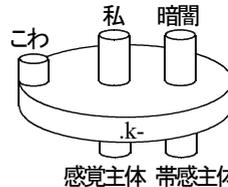
- a) 私がこわい
- b) 暗闇がこわい

「こわい」は「感情形容詞」(本書p.8)の1つです。感情形容詞では主語はふつうは一人称と決まっていますので、一人称主語を省略することも多いです。「暗闇がこわい」と言っただけでも、主語は「私」だと分かります。

感情形容詞の場合も複主体が立ちますが、すでに見た「(1)本属複主体」や「(2)因果複主体」の場合と異なり、a)「私」、b)「暗闇」のどちらの主体も「こわい」という属性に対して同等に直接の主語になります。「暗闇がこわい」という拡大属性はありません。



図U4-11 私の1は暗闇が kowa.k-



図U4-12 感覚主体と帯感主体

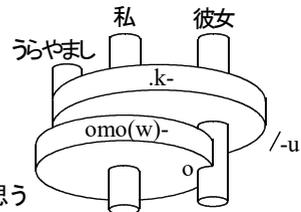
a) の「私」を「感覚を持つ主体」として「感覚主体」(感情主体)とよび、b) の「暗闇」を「感覚を引き起こす主体」として扱い、話者にはその感覚を帯びている主体と感じられるいうことで、「帯感主体」とよびます。表の形で例を挙げておきます。

表U4-3 感覚複主体の例

(本書p.22も参照)

例文	感覚主体	帯感主体	感情形容詞
(私は) 飲み物がほしい。	私	飲み物	ほしい
(私は) 当時が懐かしい。		当時	懐かしい
(私は) 彼女がうらやましい。		彼女	うらやましい
(私は) それが悔しい。		それ	悔しい
(私は) 母が恋しい。		母	恋しい

「私は彼女を/がうらやましく思う。」  
 の場合は右図のような構造になります。  
 「私は彼女がうらやましい」の構造の下に  
 「私は彼女を思う」の構造がついています。



図U4-13 私の1は彼女を/が urayamasi.k-u 思う

問U4-13 「この曲は懐かしい。」という文はなぜ二重主体の構造を持つのですか。

(4) 時場複主体

S2.1hs④

「15日」等の「時」を表す実体や、「お店」等の「場」を表す実体は本来「に格・〇2格・で格」にありますが、属性が形容詞で状態性なので、日本語ではその「時や場」が「その状態を実現させる」主体として意識されることがあります(S2 hs④)。

ここでは「時の複主体」と「場の複主体」に分けて説明します。

(4a) 時の複主体

「卵は15日が安い」というときには2つの主語があります。

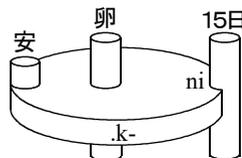
- a) 卵が安い
- b) 15日が安い (?)

形容詞「安い」の必要要素は「価格」で、意味は「価格小」なので

- a) の「卵」は、価格がありますから、適合主語といえます。しかし、
- b) の「15日」は、価格がありませんから、非適合主語です。

「15日」は本来 ni格にあるはずのものです。

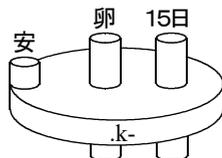
卵は15日に安い。



図U4-14 卵<sub>01</sub>は15日に yasu.k-

ところが、属性が形容詞で状態性なので、「15日」という「時」を「その状態を実現させる主体」として感じるがあります(S2章hs④ 時場主体)。それで、「15日」という非適合主語が主語になることが可能になります。

卵は15日が安い。



図U4-15 卵<sub>01</sub>は15日が yasu.k-

次の例も同様に考えられます。(時を主題化・話題化することもあります。)

あの海岸は日没時がすばらしい。(日没時はあの海岸はすばらしい。)

桜は4月初旬が美しい。(4月初旬は桜が美しい。)

彼は明日が忙しい。(明日、彼は忙しい。)

主題化等で格詞が消えている場合は、ni格の可能性もあります(図U4-14)。

日没時(〇<sub>1</sub>/に)はあの海岸はすばらしい。

4月初旬(〇<sub>1</sub>/に)は桜が美しい。 明日(〇<sub>1</sub>/に)、彼は忙しい。

問U4-14 「すいかは夏がおいしい。」の文で、なぜ「夏」は「が」をとるのですか。

(4b) 場の複主体

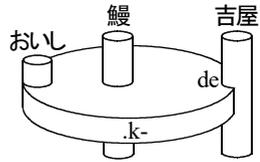
「鰻は吉屋がおいしい」というときにも2つの主語があります。

- a) 鰻がおいしい
- b) 吉屋がおいしい (?)

形容詞「おいしい」の必要要素は「味」で、意味は「良好な味」なので

- a) の「鰻」は、味がありますから、適合主語といえます。しかし、
- b) の「吉屋」は店なので食べられず、味がありませんから、「吉屋」は非適合主語です。「吉屋」は本来 de格にあります。

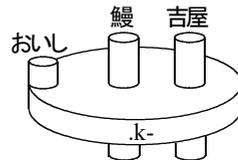
吉屋で鰻がおいしい。



図U4-16 吉屋で鰻が oisi.k-

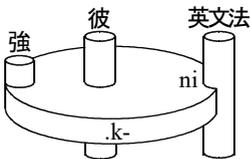
ところが、属性が形容詞で状態性なので、「吉屋」という「場」が「おいしい状態を実現させる主体」として感じられます(S2章hs④時場主体)。それで、「吉屋」という非適合主語が主語になることが可能となっています。

鰻は吉屋がおいしい。

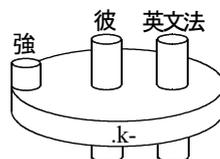


図U4-17 鰻の1は吉屋が oisi.k-

「彼は英文法に強い／英文法が強い」も同様で、「英文法」という「分野」が実現させる場として捉えられています。



図U4-18 彼の1は英文法に tuyo.k-



図U4-19 彼の1は英文法が tuyo.k-

「爆買いは当店に／で／が多い」も同様です。

主題化で格詞が消えている場合は de格や ni格の可能性もあります(図U4-16)。

吉屋(01／で)は鰻がおいしい。(本属複主体の可能性もあります。)

英文法(01／で／に)は彼が強い。

当店(01／で／に)は爆買いが多い。(本属複主体の可能性もあります。)

問U4-15 「息子は法律が明るい。」の文で、なぜ「法律」は「が」をとるのですか。

問U4-16 「数学に弱い」「恋人に弱い」のつもりで「数学が弱い」「恋人が弱い」は可能?

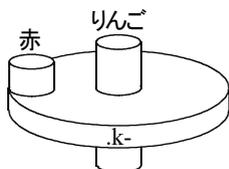
(5) 数量複主体

S2.1hs⑥

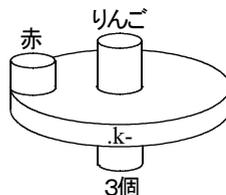
「りんごが3個赤い。」という文には2つの主語があります。(「りんご3個が赤い。」ということもあります。)

- a) りんごが赤い
- b) 3個が赤い

a) の「りんご」は「主体」です。(下図左)



図U4-20 りんごが aka.k-



図U4-21 りんごが3個 aka.k-

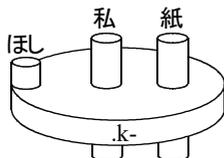
b) の「3個」は「数量主体」なので、「りんご」を時差をとって言い換えたものと考えます(上図右)。この「数量主体」が「時差主体」であることについてはS2章のp.48、及び 答S2-9 をご参照ください。

「私は紙が10枚ほしい」という例も示しておきます。主語が3つあります。

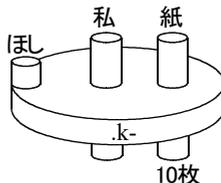
- a) 私がほしい
- b) 紙がほしい
- c) 10枚がほしい (ふつうは「が」を省略します。)

形容詞「ほしい」は感情形容詞なので、

- a) の「私」は「感覚主体」で
- b) の「紙」は「帯感主体」です。(本書p.47 「(3) 感覚複主体」参照)
- a) b) だけだと構造は下左図のようになります。
- c) の「10枚」は「数量主体」なので、構造は下右図のようになります。



図U4-22 私の1は紙が hosi.k-



図U4-23 私の1は紙が10枚 hosi.k-

問U4-17 「社員は5人が忙しい。」の構造を図示してください。

問U4-18 「社員は5日が忙しい。」の構造は問U4-17の構造とどう異なりますか。

問U4-19 「私は選手3人が誇らしい。」の構造を図示してください。

問U4-20 「彼の3人の娘は美しいらしい。」の構造を図示してください。